

奥中山は、人口約3000人の地域である。この地で生まれ育った私が、小学校5年生になった1973年4月にカナン園の最初の施設である奥中山学園が開園した。以来丸46年経つ現在まで、この地に住み続け、地域住民というだけではなく、仕事としてこの地とカナン園との関わりの一端を担ってきた。



小さな群の里のシンボル。

地域とのふれあいの場。

他の多くの福祉事業所と共に独特の地域文化を育ててきた。帰りたいたところ、安心して元気になる場所は、人によってそれぞれ違うが、多くの場合、家庭や友人関係、隣近所、学校や職場などにあることが多い。これが認められている関係性がある(存在の承認、あなたがいないと寂しい)②「私」が役割を果たしている関係性がある(役割の承認、あなたがいないと困る)の二つであり、このような関係性はいずれも「私」と「他者」が生み出す相互関係である。このような中で自己実現を図りながら共に元気に暮らしていくことが望ましいと思う。

奥中山には、私と同じように、奥中山学園の子どもたちと小・中学校での時間を同じ校舎で過ごし、活動し、共に過ごした人たちがたくさんいて、名前や顔のわかる者同士としての良き理解者になっていると実感している。さまざま「生きづらさ」を持った方も含めて、誰もが

「地域と共に」



127

小さな群の里事業所
所長
中嶋隆

No.127
発行日/2019年3月15日
編集/社会福祉法人カナン園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナン園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361-026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会(略称TSK)
〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松一丁目四一〇 頒価百円

●お知らせ

【訃報】

カナン園創期より、カナン園と共に歩んでこられた北村嘉勝元理事が昨年11月24日に70年の生涯を終え、天に召されました。北村さんは、カナン園最初の施設奥中山学園の開設(1973年)と共に指導員となり、1978年の三愛学舎創立時の教頭として三愛学舎の教育の基礎を創られました。その後、奥中山学園副園長、園長、小さき群の里施設長、三愛学舎校長、そして両法人の理事などを歴任され、2008年に退職され、故郷である宮古市に戻られていました。

これまでの多大なご功績に感謝を申し上げますと共に、ご家族へのお慰めを心よりお祈りいたします。

あとがき

訃報で触れたように、北村嘉勝さんが亡くなられました。個人的な思いで恐縮ですが、カナン園の第2世代の私にとって、北村さんは師匠のような存在でした。若さ思っただけで突き進む危なっかしい若者に対し、温かく、(ときに厳しく!)、見守り、進むべき方向を示してくださいました。この仕事の深さ、そして意味を、身をもって示すと共に、私たちに多くの「問い」を投げかけ、その問いによって自らを磨くことの大切さを教えてくださった方でした。

利用者といわれる方々のことを絶えず第一に考え、なおかつご家族のことや、職員一人ひとりのことも丁寧に考える方でしたので、関わりのあった全ての人から頼られ、慕われていました。退職して故郷の宮古に戻られた後も、カナン園の一人ひとりのことを心に留めてくださっていたので、それぞれの心にポツカリと空いた穴は、簡単には埋められないかもしれません。

あるとき、こんな言葉を聞いた、と嬉しそうに話してくださいました。その表情や声と共に鮮明に覚えています。「鉛筆型人間」という話です。「まわりに〈き〉を使い、真ん中に〈芯〉がある、ってことだよ」と。そうありがたいよなあ、と話されていた北村さんは、私たちから見ると、まさしくそのような生き方をされた方でした。

あの震災があったあとの宮古でのお働きを知る人たちは皆、北村さんはこのために宮古に戻られたんだね、と話されます。カナン園の私たちにとっても、地域の方々にとっても、失った存在の大きさを嘆きたくないので、残してくださいましたものに目を向けるとき、その大きさに励ましをいただけるのも確かです。絶えず語ってくださっていた「希望」を、そこに見出し、私たちの歩みを進めていきたいと思います。(佐藤真名)



となくカナンで就労訓練し、3年10カ月、念願かなって企業に就労することができた佐々木陽右さん。品出し職人、顔出し(商品を表にそろえる作業)職人を目指してがんばっていきます!

●機関誌「カナン園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナン園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

社会福祉法人カナン園

カナン園法人事務局

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園 ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 ゆいまる ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 小さな群の里 ☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
- 共同生活援助事業所 ののさわ(グループホーム1~6) ☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
- 生活介護事業所 ヒソプ工房 ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 共同生活援助事業所 HANA(盛岡地区グループホーム1~6) ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 特定相談支援事業所 らぼーる ☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
- 生活介護事業所 シャローム ☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884

- 就労継続支援B型事業所 ウィズ ☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
- 多機能型事業所 福祉工場カナン牧場 ☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
- 共同生活援助事業所 美空(グループホーム1~10) ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 居宅介護事業所 れもん ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび ☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
- 多機能型事業所 となんカナン ☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
- カナン市場(カナン園商品一括取扱所) ☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

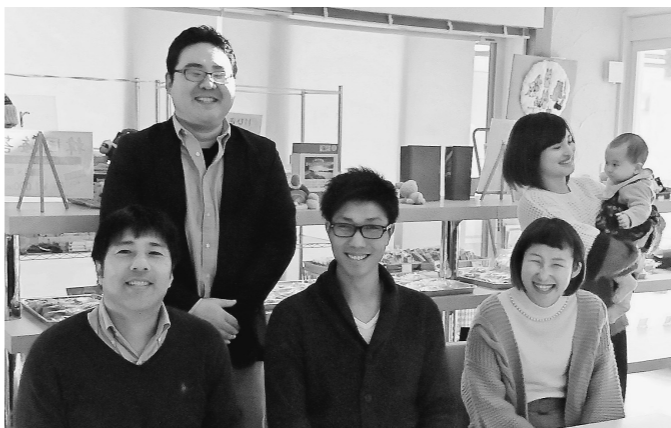
学校法人カナン学園

- 三愛学舎(特別支援学校高等部・知的) ☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

本誌は再生紙を使用しています。

カナンの園で働く私たち。 ——仕事、生活、願い、そして夢。

カナンの園に限らず、教育や介護も含めて、福祉現場で働く人材の不足は深刻さを増しています。この仕事の魅力を伝えられていない？ あるいは、もっといい労働条件が示されれば、など原因を考えてしまいます。そこで、実際に現場で働く若い方々の思いを聞いてみたいと、カナンの園で働き始めて1年目から4年目までの方々に集まっていたいただき、座談会を企画しました。仕事のこと、生活のこと、将来の夢、そしてカナンの園や利用者さんたちへの思いなどを語り合ってもらいました。



2019年1月12日 Caféおーでんせ（となんカナン）にて

- 出席者
竹澤和人（生活支援センター…1年目）
三上詩織（小さき群の里…2年目）
三浦航（三愛学舎…3年目）
佐藤佳織（ヒソプ工房…4年目）
- 司会
岩崎崇（三愛学舎）

カナンとの関わり

司会 土曜日の午前にも関わらず、集まっていたいただき、ありがとうございます。ここはキッズスペースもありますが、お子さん連れの佐藤さんもいますが、どこでお話を聞きましょうか。

佐藤 できれば娘がゆつくりできるような、キッズスペースでお願いします。

司会 まずは自己紹介から。所属、仕事内容、趣味などを聞かせてください。

三浦 三愛学舎の教員で3年目です。本科1年生を担当しています。趣味は、ずっとサッカーをやってきて、現在は知的障がい者サッカー連盟のスタッフとして、



竹澤和人さん

「三愛学舎はすごいですよね。生徒のみなさんが自然に包丁を使いこなしていて、びっくりしました」（竹澤）

選手と一緒に汗を流しています。他にはスポーツジム通い、温泉も好きです。
竹澤 生活支援センターでグループホームの生活支援をしている1年目の職員です。趣味は、料理なので、グループホームの食事作りにも役立っています。得意料理はオムライス。フットサルもやっていて、カナンの園の利用者の方々や職員と活動しています。
司会 オムライスにも色々あるけど…。
竹澤 卵ふわトロのオムライスです。
全員 うわあ、食べた〜い！
三上 小さき群の里2年目です。支援員としてリサイクルで回収した空き缶の選別作業を担当しています。また、音楽療法で、月1回、利用者さんと歌ったり、楽器を鳴らしたり楽しく活動を行っています。趣味は映画鑑賞、カフェ巡りです。
佐藤 ヒソプ工房4年目で、支援員をしています。現在、育児休暇中で、娘は生後6カ月。現在は子ども中心の生活になつており、趣味も子育て。一息ついたときに、録画していたテレビ番組やDVDを観たりすることが安らぎです。

「音楽療法で、月1回、歌ったり、楽器を鳴らしたり楽しく活動を行っています」（三上）



三上詩織さん

それぞれのきっかけ

三浦 みなさんにこの仕事に就いたきっかけをうかがいたいです。私は、大学が宮城県で、障がい者サポートサークルでレクリエーション指導をしていました。その経験を活かせる仕事がないかと思ってハローワークに行ったところ、三愛学舎の求人があり、応募。あまりにもタイムイングがよく、運命を感じました。

竹澤 私は、両親が以前カナンの園で働いていて、福祉の仕事に興味がありました。別の福祉事業所で10年間非常勤で仕事をしていましたが、このままではまらずにと思い、カナンの園に応募し、正規職員として採用していただきました。

三上 私は、音楽療法を学びたくて北海道の大学に行きました。岩手県で就職したいと思ったとき、高校で3年間、カナンの園後援会の街頭募金に参加していたことを思い出し、応募しました。利用者の方々から音楽療法をすごく楽しみにしてくれ「次はいつ？」と聞いてくれるのがうれしいです。資格を活かして働ける職場だと思っています。

佐藤 どんなことをするのですか。
三上 歌を歌ったり、自由に楽器を鳴らしたりする中で、気持ちが解放され、ストレスが緩和されるようになります。みなさん、ジャンベという楽器が好きでよく鳴らします。言葉では上手く伝えられなくても、音と音とでコミュニケーションが取れることや、活動を通して自己表現できることが素晴らしいと思います。

佐藤 私は、保育士になりたくて専門学校に行きました。高校時代の運動部のコーチがとても熱い人で、福祉事業所で働きながら、外部コーチとして、指導していただきましたが、そのコーチから「ボランティア活動をしなさい」といわれていました。その方の紹介でフライングデイスクのスタッフとして、障がいのある方々と関わる機会があり、とても楽しくつたです。その経験が後押しし、専門学

仕事と生活

三上 話は変わりますが、休日はどんな過ごし方をしているんですか。

竹澤 普段は犬の散歩をしています。夏場は青森県の小川原湖に行き、しじみ採りなどをしています。職場の同僚におすそ分けをしたら好評でした。

全員 今度、私たちにもくたさ〜い。
三浦 私は、やりたいことをやると決め

校での実習で行ったヒソプ工房でこの世界に心を奪われました。
司会 出合いつて重要ですよ。他に聞きたいことがありますか。
佐藤 料理上手な竹澤さん、グループホームで料理を出したときの利用者さんの反応はどうですか。
竹澤 何を作っても喜んでくれるので、うれしいです。冷蔵庫などにあるもので、ご飯、汁物以外に3品のおかずを作るようにしています。
三浦 す〜いなあ。私は一人暮らしの経験があるので簡単なメニューは作れますが、三愛学舎では生徒と一緒に昼食作りの授業があり、日々勉強中です。
司会 私も三愛学舎で料理を覚えまし

て、計画します。一昨年はバンジージャンプ、昨年はボルダリング、今年はスカイダイビングをしました。普段はサッカーなどをしていますが。
全員 す〜い。スカイダイビングの話、もっと聞きたいです。
三浦 つい先日スカイダイビングをやってきたんですが、その様子は授業で話す予定なので、それまでは内緒です。
佐藤 私は子育て中なのですが、夫の実家が近く、娘を連れて顔を出すようにしています。義父が「来たかあ」と喜んでくれるのがうれしいです。
三上 普段は奥中山にいますので、休日は実家に戻り、友達とカフェや旅行、ライブに行ったり。あとは、音楽研究会に所属しており、定期的に活動しています。
竹澤 仕事と私生活のバランスは？
三浦 仕事を自宅に持ち帰ることもありますが、基本的には休むときは休むと決めています。
佐藤 私も同じです。仕事に集中するときはあるのですが、休むときには休むようにしています。

竹澤 勤務外に余暇支援として利用者の方々とは卓球をしたりするので、半分仕事という感じもありますが、普段では築けない関係づくりができて楽しいです。メリハリはつけるようにしており、家に帰るとリセットされます。
司会 子育てで真っ最中の佐藤さん。職場ではお子さんができてから産休に入るま

「やりたいことはやる、と決めて計画しています。今年はスカイダイビングをしました」(三浦)



三浦航さん

で、配慮はありましたか。

佐藤 ヒップ工房のみなさんには、色々配慮いただき、ありがたいという気持ちしかありません。産休ギリギリまで仕事に関わらせていただきました。重い物を持つときに声をかけて代わってくれたり、デスクワークに切り替えてくれたり。復帰後は、仕事、育児を両立することになり、初めてなので自信はないですが、やるしかないし、きつとみなさんに助けていただけていると思います。

就職した頃の自分に一言

司会 終盤になってきましたが「就職した頃の自分に一言」というお題でお願い

します。

三浦 「三愛学舎で働くことになってよかったよ」といいたいです。ここで働かせていただき感謝しかないです。それから「就職する前に、もっと人と関わること、たくさんの人と話すこと、勉強しておいた方がいいよ」ともいいたいです。

竹澤 「転職して正解」と伝えたいです。**司会** もう少し具体的には？

竹澤 ここは上司から「責任はとるからまずやってみて」といわれて、仕事を任せていただける職場です。それが自分の力になっていきます。ありがたいです。

三上 「毎日が新しく、すごく楽しみながら仕事ができ、そういう環境の中で仕事できて幸せだよ」と伝えたいです。

佐藤 「この仕事につけてよかった」。それから「もう少し勉強していればよかった、もっとボランティアをやっておけばよかった」という後悔もあります。それがある、もっと厚みをもった支援ができるようになるかな、と思います。

司会 みなさん、すごくまじめですね。

「産休の復帰後は、仕事、育児を両立することになり、初めてなので自信はないですが、みなさんに助けていただけたらと思います」(佐藤)



佐藤佳織さん

お話を聞きながら、今日のキーワードは「厚み」「深み」かな、と思いました。「厚みのある支援(教育)」ということはもちろんですが、生活や人生そのものに厚みや深みを求めている姿、それをカナンの園で自然体でやっている姿に共感しました。最後に、カナンの園に望むこと、伝えたいことはありますか。

三浦 これからもカナンの園の一員として、たくさんの方々と関わり、横のつながりを大切にしていきたいです。

竹澤 カナンの園は、地域の方々との関わりが濃く、利用者さんのことを分かってくれています。これからは地域の方々の関わりを大切にしていきたいです。

佐藤 子育てに関する要望や悩みを話せる場があればいいと思います。

座談会を終えて…

司会 福祉は現場の方々の実践の積み重ねから制度が作られてきました。カナンの園にも同様の歴史があります。これからつくっていくのはみなさんの実践です。若い方々の感覚、いまを生きていくみなさんの提案が、これからをつくっていくと思います。そんなみなさんを心から応援しています。本日はありがとうございました。

「働き方改革」「ワークライフバランス」などのことが注目される今日ですが、座談会から見えてきたのは、自分の「居場所」を見つけ、仕事と前向きに向き合い、気負いなくいまとこれからを大切に生きるステキな若い方々の姿でした。組織として、一人ひとりが働きやすい職場をつくるのは大切なことですが、もっと純粋に、まぶしいくらいに輝く彼らを応援したい！ と思いました。
(事務局 佐藤)

ことばひろい 第25回

僕のことばを忘れないでね

のさわ事業所 主任 成田知道

ことが大きいと思いました。仕事をしていてそんな風に感じたのは後にも先にもあんなときだけです。

しかし今では、あんなときのような寂しさを感じることは全くありません。5年の間、一つ屋根の下で同じ釜の飯を食べてきたという事実が、初めの頃の寂しい感じを遠のけていったのだと思います。食卓の状況はそんなに変わっていかないのに不思議なものです。

君看双眼色
(キミミヨソウガンノイロ)
不語似無憂
(カタラザレバウレイナキニタリ)

期の子どもたちとの賑やかな毎日でした。5年前、のさわ事業所のホームに初めて自分一人が入ったとき、なんとなく「寂しいなあ」と感じたのを思い出します。特にそれは食事の時間に感じられました。利用者の皆さんは黙々と食べていて、聞こえるのはテレビの音と食べる音、食器の音、そして私自身が口にした声の音、言葉のみという感じでした。ふと「会話がな」と気づき、寂しい感じはその

この機関誌上で以前にもどなたかが引用されていた言葉です。白隠禪師の禅語だといいます。よく知られている解釈は「あなたには分るだろうか、二つの眼に浮かぶ心の揺れが。何も言わないので、まるで何の憂いもないように見えるだろうが、本当はそうじゃない。言わないだけ、言えないだけなのだ」

のさわ事業所のホームにいます、この言葉の指し示すものが実感されます。



利用者の皆さんは、いわゆる「言葉」によらない方法で自分の気持ちや状況を表現することの方がはるかに多いと思います。例えばそれは健康面の変化として表したり、行動の変化として表したりといったことです。だから日々のバイタルチェックもしているし、何かいつもと違った様子がないか職員同士で話題にするようにもしています。それでも、利用者の皆さんの心の奥深くにあるものをどこまで受け止めることができるのだろうか、とも思います。

ただ、この5年間で利用者の皆さんと共に一つ屋根の下で同じ釜の飯を食べたという時間のもたらすものは大きいとも感じています。相手の気持ちの正確なところはつかめなくても、お互いを理解するための共通の土台のようなものは知ら

そして今になって思うのは、人の気持ちを理解できるかどうかというのは、いわゆる言葉の問題ではないということだと思います。少なくとも狭い意味での言葉ではないように思います。共有するものを積み上げていくように、相手のことを大切に思いやる関係性をじっくりと築き上げていくことだけが、人の気持ちの理解につながる道筋のような気がするこの頃なのです。

A君、君のこと、忘れていないよ。何よりも君から教わった一つひとつを…。

みんなのカナ



（卒業生の今は？）仕事&くらし&人間関係を聞いてみました。

■ 将来の暮らし 〜卒業生から学ぶ〜

中山も銀世界に染まった12月のある日。三愛学舎卒業生の小笠原夏帆さんがみんなの授業の講師として来校しました。私たち生徒の質問に夏帆さんがたくさん答えてくれました。聞かれたことに対して、自分の言葉で思っていることを答えてくれる姿は、かっこいい！と感じながら授業を楽しみました。この授業で私が心に残ったことがあります。夏帆さんは車をもっていないそうです。それでもバスを使い盛岡を散歩したりして楽しんでいるそうです。



カナンパンも人気でした。お客様で賑わっている様子をお見せできず残念です。

この授業に参加してみて、私は「車がなくともバスがあるじゃないか」と思いました。私はさらに練習してバスの乗り換えができるようになりたいなど目標を見つけることができました。夏帆さんの授業に参加して良かったと思いました。
（専攻科1年生 鈴木萌々花）

■ クリスマスバイキング

今回のクリスマスバイキングは5日間の期間限定のバイキングでした。メニューはローストチキン、ミートローフ、パスタ、ピザ、カレー、フレンチトーストなどがあり、たくさんのお客様に来ていただき、うれしかったです。

■ 皆さんと共に音楽活動！

小さき群の里では、新しい建物が建ったことや、私が学生時代に音楽療法を学んだこともあって、今年度から月1回、音楽療法による活動「音楽活動タンブル」と名づけまし

たです。人気だった料理はパスタです。パスタは毎日、味を変え、飽きないようになっていて、厨房にたくさん作ってもらいました。お子さん連れや家族連れの方々にたくさん来ていただき、とてもよかったです。
（とんかんカナン
カフェおーでんせスタッフ
B型利用者 野中未央）



歌が、音楽が、皆さんを笑顔にします。

た）を行っています。音楽の持つ特性を活かし、音楽を聴いたり、歌を歌うことや楽器を演奏することで体や頭の活性化や、気持ちのリラクゼーションなどを促すことを目指しています。
新しく完成した建物の、木のぬくもりが感じられるホールでの活動は、あたたかい雰囲気で行ない、歌を歌うことが好きな方、楽器演奏が好きな方など、さまざまな音楽家さんたちが奏でるメロディーがホールに響く心地よいひとときです。参加する仲間を増やしながら、豊かな時間を一緒に過ごしていきたいと思っています。
（小さき群の里支援職員 三上詩織）

東北フォーラム販売2年連続売上第1位！！



東北フォーラム「商品紹介プレゼンテーション」。

11月8日〜9日の2日間、青森県で開催された「東北フォーラム」での物産展へ、青森出身のシャローム利用者の鈴木剛さんと泊2日で参加してきました。
東北フォーラムとは、東北地区 知的障害者福祉協会が主催する研修会です。東北各地より施設職員が集まり、日々の支援を発信し合い、やりがいや想いを共有する機会となっています。2015年の第1回福島大会に始まり、今年で第4回目となりました。

昨年の岩手大会では、私が岩手県代表として発表し、同時開催の物産展でもシャロームの製品を多くのお客様にお買い上げいただき、売上第1位となりました！今年も、鈴木さんが得意の暗算を駆使し、販売の計算を行なってくださいと、よりたくさんの方々にシャロームのことを知ってもらい、製品も買っていたことができました。そしてなんと2年連続で売上第1位を獲得することができました！！



2年連続売上第1位獲得！売上貢献した鈴木剛さん。

利用者の方々と一緒に作り上げてきた製品を、たくさんのお客様が手に取り、喜んでくださることが、ご本人たちにとっても、職員にとっても、働く喜び・やりがいとなることを改めて実感する機会となりました。
（シャローム支援職員 菅原光樹）

歳時譜

ヒソプ工房の皆さんとの交流を通して

私たち、社会福祉学科の1年生5名は1月22日にヒソプ工房へレクリエーションボランティアとしてお邪魔させていただきました。

冬休み前からどんなことをするかなど、グループで話し合いを行いました。なかなか決まらず、当日ギリギリまで準備に追われてしまいました。
当日、私たちは、複数考えたプログラムの中から、ラジオ体操、紙コップ積み、ペットボトル爆弾ゲーム、ビンゴ大会を行いました。

紙コップ積みの際には、各グループの個性溢れた作品が多く、完成したものをみんなで見せ合うことがとても楽しかったです。



見事に「ビンゴ!」。手作りの首飾りのプレゼントを贈りました。

ペットボトル爆弾ゲームとビンゴ大会を通して、利用者の皆さんとの心の距離が少し近づいたような気がしました。
最初はとても緊張していた私たちですが、皆さんはとても気さくな方が多く、一緒になって楽しむことができました。
活動が終わった後、ヒソプ工房の皆さんからクッキーなどをいただき、とても温かい気持ちになりました。あつという間の時間でしたが、とても濃い時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

（盛岡医療福祉専門学校
社会福祉学科 上山菜奈）